



生き物のつながり 「生物多様性」ってなんだろう!!

地球上の生き物はどれを取ってみても、自分一人、ただ一種だけで生きていくことはできません。他のたくさんの生き物と関わりあって生きているのです。その生き物のつながりを「生物多様性」といいます。

自然環境と生き物のつながり

地球上には、たくさんの生き物がいます。私たち人間や動物、野菜や草花などの植物、カビや細菌などの微生物、その数はわかっているだけでも200万種類いるといわれています。これらの生き物は、山、里、川、海などのいろいろな場所で暮らしていて、私たちの生活には欠かせないたくさんの自然の恵みをもたらしてくれています。

人間が生物多様性を壊している

生物多様性が失われつつあります。その大きな要因として人間の活動があります。農業の影響、天然林の人工林化、里地里山の管理不足、イノシシやシカなどの動物の増加、本来その場所にいない外来生物の影響があります。こうした状況を放っておくと生物多様性が損なわれ、私たち人間が生活する上で欠かせない自然の恵みも失われます。それを防ぐため、自然再生活動や絶滅危惧種の保護などの対策が求められています。

日本の国土は、南北に長く、たくさんの島があります。山と海の高低差があり、四季の変化、火山や台風などの自然現象、そして人間の活動の影響を受けて、さまざまな生態系が形成され、それぞれの生き物の生活の場となっています。

里地里山
人間の働きかけで特有の自然環境が形成されてきました。農地、ため池、草原やその周辺の林などがあります。

福井県の希少生物

福井県では、動物が約8,500種、植物が約2,700種いることが確認されています。この中には全国的にも希少な生物も含まれています。(右の写真)
本県に生息・生育する野生生物のうち絶滅のおそれがある動物が533種、植物が731種(福井県レッドデータブック2016)リストアップされています。この中にはかつて身近にいたドジョウ、メダカ、ウナギなども含まれていて、生物多様性の回復に向けた対策が急がれています。



青葉山(高浜町)にわずかに自生するオオキンレイカ



本願清水(大野市)に生息するイトヨ
写真提供: 本願清水イトヨの里



世界でも夜叉ヶ池(南越前町)のみに生息するヤシャゲンゴロウ



国内でも生息地の数が多く確認されているアベサンショウウオ
写真提供: 福井市自然史博物館

奥山
人間の影響が比較的小さい地域で、大型のほ乳類や猛禽類も生息しています。

河川・湿原
魚や水鳥など多様な生き物がすんでいます。河川は森と海をつなぐ重要な回廊です。

沿岸・海洋
干潟、サンゴ礁、深海など変化に富んだ生態系があります。陸上の気候や生態系にも影響を与えています。

コウノトリが舞う里

越前市では生物多様性や自然再生のシンボルとして、毎年コウノトリを放鳥しています。また、水田に魚などを呼び戻すための水路の整備、生き物が暮らすビオトープづくり、子どもたちによる生き物調査、ドジョウの養殖事業、農業や化学肥料を使用しない「コウノトリ呼び戻す農業米」の栽培など、里地の水辺環境を再生し、里山を保全する活動を行い、コウノトリが舞う里づくりを目指しています。



県内で生まれた卵から誕生したヒナ

私たちにできること

生物の絶滅を食い止めるために、私たちができることを考えてみましょう。

- 1 生き物に関心を持ち、通学路、校庭、近所の雑木林や小川などにどんな生き物がいるか観察してみましょう。
- 2 食べ物に感謝しましょう。食べ物になった生き物はどこで生きていたか、どこで採れたかを調べてみましょう。その生き物は、他のどんな生き物と関わっていたかを想像してみましょう。
- 3 なるべく地元で採れた物を食べるよう、おうちの方と話してみましょう。
- 4 ペットは責任を持って育てましょう。飼いつづける自信がなければ飼わない、飼えなくなっても決して捨てないようにしましょう。
- 5 他にも、生物多様性を守るために、何かできることがないかを考えてみましょう。



公益財団法人 福井原子力センター
原子力の科学館

あっとほうむ

入館無料

福井県敦賀市吉河37-1
☎0120(69)1710
開館時間/9:00~17:00 休館日/年末年始

北陸自動車道敦賀インターから車で3分
JR北陸本線敦賀駅から車で10分

あっとほうむ 検索 <http://www.athome.tsuruga.fukui.jp/>